

(別記様式)

令和2年度 府立田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「人間力ある人づくり」を目指して</p> <p>1 生徒一人ひとりを把握し、多様な組織的な教育活動を個に応じた形で展開する。</p> <p>2 普通科および工業に関する専門学科の併設を生かした教育活動を展開する。</p>	<p>本校は「人間力ある人づくり」を目指して教育活動に取り組んできた。令和元年度は、前年度の成果と課題を踏まえ教職員が一丸となって本校の教育活動を前進させることができた。また、多くの生徒は、積極的に授業や学校行事に取り組み、学力の向上や自主性、創造力を培うといった点で成果が現れてきている。</p> <p>1 規範意識等に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみ指導や遅刻の根絶等、基本的生活習慣の確立に向けた指導の下、一定の成果は見られる。今後、あらゆる機会を通じた粘り強い指導を行い、生き生きと充実した高校生活の充実を目指し、帰属意識の定着をより一層図る必要がある。</p> <p>2 進路指導・学習指導について 進路決定状況では、本校の強みを生かし、今年度も内定率100%を達成することができた。進学においては、国公立大学合格者が、平成30年度の4名から令和元年度1名と減少したものの、私立大学合格者において、平成30年度の54名から令和元年度134名と大きく飛躍した。これは、早期に進路決定するのではなく、自分の可能性を信じ、推薦入試・一般入試まで最後まで諦めさせない指導の成果である。今後もこの粘り強い指導を続けていきたい。一方で、学習指導について、日頃よりきめ細かな指導を心がけ、実践してきたが、途中、意欲をなくす生徒も一部でてきて、中途退学及び転学者数の減少には繋がらなかった。より細やかな指導が求められる。</p> <p>3 部活指導等本校への帰属意識向上 陸上競技部や機械工作部に代表されるように、全国・近畿で活躍する生徒がでてきているものの、部活動加入率は減少傾向にある。様々な機会を使って部活動の意義について理解させ、高校生活の充実を図り、学校生活の満足度のさらなる向上を目指す必要がある。</p>	<p>1 自他を大切にする人権感覚の育成に重点を置くとともに、身だしなみ違反や遅刻の根絶等、基本的生活習慣を確立する。また、全員が安心して安全な高校生活をおくれるよう規範意識の確立と授業規律を徹底し、教育環境を整備する。</p> <p>2 生徒の希望進路の実現を第1に、入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力の向上を図る。進学・就職ともに強い進路指導体制の充実を図るとともに、粘り強い学習指導を通して原留・中退・転学等を減少させる指導を徹底する。</p> <p>3 部活動の加入率の増加を目指し、部活動のさらなる活性化を図る。また、学校行事に積極的、主体的に取り組むよう常に工夫・改善に努め、学校生活の一層の充実を図り、生徒の「人間力の育成」を図るとともに、生徒・保護者の学校満足度のさらなる向上を目指す。</p> <p>4 ICT活用の研究を進める等、魅力ある授業を展開し、学習・指導方法及び評価方法の研究を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を推進させ確かな学力を育む。</p> <p>5 地域と連携し、地域創生に寄与する取組を推進する。地域の高校としての存在感を高め、心身の健全な発達と母校を愛し、誇りの持てる高校生の育成を目指す。</p> <p>6 本校の特色ある教育活動について工夫を凝らした広報活動を積極的に展開し正しく、広く理解していただくとともに、保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。</p>

	<p>4 地域連携・広報等について</p> <p>京田辺市と連携協力に関する協定を生かし、工業に関する専門学科の地元企業での体験等の事業を実施し、生徒の職業観の育成を図ることに大きな成果があった。広報活動では、新たに中学校教員向け説明会の実施を行うなど、本校の特色ある教育活動について正しく、広く理解してもらうための取組を昨年度実施した。今後さらに魅力ある広報活動を展開し、中学生に「第一希望」として選ばれる学校づくりを進めていきたい。</p>	<p>7 上記の項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図り、全教職員が一体となる体制づくりを行い効果的かつ組織的な教育活動を実践する。</p>
--	--	--

分掌 教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
副 校 長	組織運営	生徒と向き合った生き生きとした教育活動が行える学校作りの推進	部長会議を中心に連絡・調整を密にした学校運営を進める。	A	B	B	新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言等に学校として対応することが多かったが、部長会議で連絡・調整を行い、大過なく学校運営を進めることができた。 勤務時間管理については、月2回のノー残業デーに時間を意識した勤務を呼びかける等、啓発を行った。 広報活動については、新型コロナウイルスの影響で本校の教育活動を広報する機会の縮小を余儀なくされたが、最小限の機会を活かし、工夫を凝らして実施することができた。
		普通科・工業に関する専門学科の特色化の推進と広報活動の充実	普通科・工業に関する専門学科の教育内容の更なる改善と充実に努め、地域や地元企業との連携をより一層推進する。また、本校の特色ある教育活動について正しく広く理解していただくため、保護者、中学校、地域等への広報活動を更に充実させる。	B			
事 務 部	学校運営	企画、立案及び連絡調整	効果的な学校運営に不可欠な予算執行に係る企画、立案に積極的に関与し、これを実行する。	B	B	B	新型コロナウイルスのため、多くの学校行事が実施を見送られる中であっても、授業を基本とする日々の学習活動に支障の無く適切な予算執行ができるよう、これらに関与してきた。また、障害のある生徒の入学を踏まえた対応も適時、適切に対応できたことが、コロナ禍の対策にも生かされ、効率的な学校運営に意識をおいた業務への取り組みができたのは、高く評価できる。
	文書・ 情報管理	文書事務の効率化と情報管理の適正化	法令・規定に基づいた事務処理を行い、情報の公開、個人情報の保護を意識した情報管理を行う。	B	B		
	就学支援	充実した高校生活と希望進路達成に向けた支援	在学中の生徒・保護者への支援策の効果的に紹介する。	A	A		
	維持管理 及び学校 環境の 整備	安心・安全、学習環境の充実	老朽化や緊急性を踏まえ効果の高い改善策の検討し、実行する。	B	A		
			緊急事態発生時に柔軟な対応を行うことで生徒の安心・安全確保に努める。	A			
			バリアフリーなどユニバーサルデザインを意識した改修を行う。	A			
	財務及び 会計	効率的な予算執行と適切な会計処理	費用対効果を意識した予算執行体制を確保する。	B	B		
			適時に必要な予算を担保し、学校運営に携わる。	B			

教務部	学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考査を適切に計画し円滑に実施する。	A	B	B	コロナ禍の影響を最小限に抑えるかたちで行事予定を再編成し、学習活動を円滑に実施できた。 来年度の教育課程については、編成を終えたが、新学習指導要領を見据えた教育課程の編成は課題を残している状況である。 校務システムの運営により、教職員の負担軽減は図れているが、ミスを起こさないシステム作りを検討していく必要がある。
			生徒向けの授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立てる。	B			
			公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。	B			
			今後の教育課程について検討を進める。	C			
	情報管理	生徒情報の円滑な管理	校務システムを円滑に運営するとともに、成績処理及び個人成績票発送の適切な管理を図る。	B			
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣、学習態度を確立させる指導の充実	身だしなみの指導等において、全教職員が一致した指導を実施する。	C	C	C	身だしなみ指導については、多くの教職員の協力のもと実施したが、全教職員が一致した指導をしているという状況にはならなかった。 携帯電話の指導については休校期間もあったためか、昨年に比べると大幅に減少している。 コロナの関係で学校祭を含め多くの行事が中止となったが、生徒会を中心に新たな取り組みをすることができ、概ね成功させることができたことについては非常に良かった。
			生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する。(授業中の携帯電話使用を減らす)	B			
			各分掌・教科と連携し、生徒指導を実践していく。	C			
	特別活動	自主性・自発性の育成	田辺高校祭を成功させる。	C	C		
			部活動を活性化させる。	C			
			生徒会・ボランティア活動を活性化させる。	B			
進路指導部	進路指導	希望進路の実現	入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。 進学補講を年間を通じて週1回実施する。	B	B	B	進学補講は3年生は臨時休校明けの6月から実施できたが、2年生は2学期からの実施となった。 コロナ禍の影響で企業訪問は実施できず、電話での対応となった。 就職指導については、昨年度と比べ、一次で不調となる生徒は大きく減少し、不調者に対しても適切に指導した結果、全員が内定に至った。 3年生の保護者説明会については時期を変更して6月に実施し、2年生は11月に実施した。1年生は調整がうまくいかず、今年度は実施を見送った。また、学習合宿に代わる新たな行事も実施した。
			自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、企業訪問を実施し、就職指導の充実を図る。	C			
			昨年度に引き続き就職内定率100%を目標とする。系統的な進路指導となるよう、指導の内容については見直すべきものを改善・整理していく。	B			
			保護者との連携				
			適切な時期に個別面談や進路説明会を実施することにより、進路決定に向けて、生徒及び保護者との共通理解を図る。 各学年1回以上の保護者説明会を実施する。				

保健部	健康安全 教育の 推進	健康な心身の育成	健康診断を全項目受検させ、特に心臓・尿検査について精密検査が必要な生徒を全員受診につなげる。	B	B	B	コロナ禍の影響で例年とは異なる形で健康診断を実施たため、授業時間数確保と全員受診のバランスを考慮しながら行わなければならなかった。 SCの追加配当が100時間あり、生徒や教職員の不安軽減に向けて相談活動が充実した。 特別支援教育会議では、生徒の学習環境の調整、生徒の心身健康上の配慮を適切に協議できた。 行事の大幅縮小等でクリーンキャンペーン開催にも大きく影響した。 ゴミの分別推進に事務部と連携して取り組めた。
			相談活動（カウンセリングを含む）や来室生徒への保健指導を適切に実施する。	A			
			特別支援教育会議を定期的開催し、特別支援教育の視点を活かした指導を推進する。	B			
		校内美化に対する啓発の促進	日常の清掃活動が円滑に行えるように各学期に1回、掃除道具の整備・補充を行う。	B			
			クリーンキャンペーンや大掃除を定期的実施する。	B			
			毎日のゴミ捨てを推進し、ゴミ減量への啓発を行う。	B			
図書部	学習指導	生徒の図書館利用及び読書活動の推進	購入図書及び各種資料の適切な選定と配架を行う。	A	B	B	4月5月の休校により図書館での新入生オリエンテーションは行っていない。国語科の協力を得て、プリント配布や説明をしていただいたので1年生も活発に図書館を利用しているが、ハダィを持つ生徒に対する配慮はできていない。全体の利用者数は例年とさほど変わらないが、今年度は静かに読書している生徒が多い。 府立図書館・京田辺市立図書館の機関貸出も利用して、授業や生徒・教職員の要望に応えるよう努めた。 本をより見やすく、探しやすくするためにコミック用書架や雑誌用ラックを新たに設置、利用頻度の低い本などを書庫に移動した。 図書館の蔵書検索や広報（図書館だより、新着図書案内など）のWeb活用が今後の課題である。 芸術鑑賞は、今年度の実施を見送り、来年度の実施としたため、評価なしとした。
			新着図書や思考・読書のきっかけになる本について効果的な情報発信・広報を行う。	B			
			図書館が生徒のニーズに応じて機能できるような環境作りに努める。	B			
		視聴覚機器の整備	視聴覚機器を適切に管理する。	B			
	特別活動	芸術鑑賞の実施	芸術鑑賞に関心をもって参加できるよう、事前の取組を工夫する。				
			プログラムの打ち合わせ等を十分に行い、生徒の心に残る内容にする。				
			次年度の演目について検討し、適切な時期に決定する。				

総務・人権教育部	広報活動	中高連携と広報活動の充実	中学生・保護者の本校に対する理解や関心を高めるため、学校説明会や施設見学等を再編し実施する。	C	C			第1回学校説明会、第2回学校説明会では各教員の協力を得ながら実施した。今回は、分掌部長の中学校訪問ができず、中学校へのアピールの機会が減少した。また中学校での進路学習、出前授業、塾主催の説明会が激減し、アピールの場が大いに減少した。
			各教員が新設したホームページをより有効に利用できる体制を整え、生徒の活動を学校内外に広く紹介する。	B				
	人権教育	人権意識の高揚及び実践的態度の育成を通じた人間力の充実	生徒の人権意識の向上と学習の深化・定着を図るため、視聴覚教材や外部講師による講演を通じた人権学習を実施する。	B	B	B		広報活動では学校ホームページをより分かりやすく学校をアピールできるように運用している。臨時休業のときなど、緊急伝言板やPTAお知らせメールを活用した。緊急性の高い情報を速やかに伝えた。また、広報誌等でも引き続き広報活動を行った。 人権学習では、新型コロナのため変更を余儀なくされたが、おおむね目的を達する人権学習が実施できた。また、人権教育推進事業を利用し、本校で急増する外国にルーツを持つ生徒に関わる人権問題について教職員研修を実施した。
工業部	工業教育の充実と発展	各科、専門科目の学習内容の充実と、各種資格・検定等の取得率向上	教育内容の精査、より効果的な実施方法、指導者側の有用な指導体制等について具体的な検討を進める。	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した教育課程の編成に向けて、教育内容等の検討を進めた。 ・コロナ禍による競技会・検定の実施の中止・延期等に対応し、計画を変更し指導の充実を進めた。 ・事業所、大学等との連携については、計画を変更し可能な範囲での実施を進めた。 ・インターンシップについては、本年度は実施できなかった。事業所と調整し、短期の体験活動、見学等の実施計画を調整し検討した。
			資格取得や検定の合格に向け、講習会等におけるより効果的な指導方法を検討すると共に、計画的に実施する。また、各種競技会に向けた指導の充実とその体制を整備する。	C				
		事業所や大学等において、実際の技術・研究に触れる機会の企画及び提供	事業所や大学等における、インターンシップ並びに見学会などを企画・立案・実施する。	C				
			事業所や大学等の技術者や研究者による講演や実技指導等を計画的に実施する	B				

第1学年部	学習指導 及び 進路指導	学習環境の整備 学習態度の育成 進路実現に向けた目標の設定 基礎学力の育成	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と家庭との連絡を密に行う。	B	C	B	学年として情報を共有し、欠席や遅刻をした生徒に対して、家庭連絡や声かけを徹底することができた。家庭からも理解を得ることができ、良好な関係を築くことができた。引き続き家庭と連絡を密に取り、指導していきたい。 Classiを活用した動画配信を利用した補習を行った。 コロナ禍の影響から学校行事などもなくなり、クラス単位での活動が減少したことから、クラスにおいてのまとまりに欠けている状況であるので、校外活動などを通して、帰属意識、規範意識を高めたい。 配慮を要する生徒へ引き続き支援を行う。		
			進路指導部と連携をとりながら、生徒、保護者と面談を密に行い、目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。	C					
	生徒指導 及び 特別活動	規則を守る自主・自律の態度の育成	規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。 委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。	B	B				
配慮を要する生徒への支援		関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。	A	A					
第2学年部	学習指導 及び 進路指導	主体性のある学習態度の育成	日常の学習の重要性を認識させ、学習時間を向上させる。 昨年度比： 50%増 A 30%増:B 微増:C 減少:D	D	C			B	学習時間において、第2回スタディーサポートで昨年度と比較すると、2時間以上が微増したが全体的に微減の結果であった。 学習環境の整備においては、ある程度の情報共有等は行っているが、大きな成果はでていない。 定期的に進路指導を行い、また、分野別のガイダンス等を行い、具体的に取り組みさせた。 指導件数は、1月末段階で17件と昨年度比73%減であったが、3学年中最も多い学年であった。 普段からの取り組みにより、学校行事等でほとんど欠席が無く実施できた。 合理的配慮の必要な生徒に対しては、適切な指導を行い、その結果、進路実現のために意欲的に取り組む態度が見られた。
			学習環境の整備のために、教科担当者との連携を図り情報を共有する。それに基づいた生徒への対応と家庭との連絡を行う。	B					
	希望進路の実現に向けた具体的な取組の促進	進路指導部と連携し、ホームルームや補講などを通し、具体的な対応方法を理解させ、実践させる。	B	B					
	生徒指導 及び 特別活動	規則を守る、自主・自立の態度の育成	規則遵守のため一致した指導・対応を教員が行い、指導件数の減少を目指す。 昨年度比 50%減:A 30%減:B 微減:C 増加:D	A	A				
		研修旅行など、学校行事に参加しにくい生徒への手厚い指導	面談等を実施し、その状況を共有し、学年全体で取り組む対応を進めていく。	C	C				
		配慮を要する生徒への支援	合理的かつ公平性を保ち、関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密にする。	B	B				

第3学年部	進路指導 及び 学習指導	希望進路の実現 社会人として必要な力の育成	個人面談、進路ガイダンス、保護者説明会などにより生徒及び保護者との連携を密にし、適正な進路指導を行う。	A	B	B	進路未決定者はいるが、進路指導部と連携を取りながら、個別相談を行うことによって、希望進路の実現を果たすことができた。 進路先を決定するに際し、卒業後の自分を考えさせ、今後の生活の第一歩を踏み出させることができた。 進路実現に向けて服装、頭髪等の規範について意識を持たせることはできていた。しかし、進路が決定してからは頭髪の指導を受けたり、欠席が増えたりする生徒が見られた。 新型コロナウイルスの影響により文化祭・体育祭が中止になり、生徒にはつらい思いをさせたが、進路と部活動などの取組を両立させることができた。
			授業やLHRなどさまざまな場面を通して、生徒に卒業後の自分の進路を考えさせる。	B			
	生徒指導 及び 特別活動	規範意識の醸成 規律ある学校生活	学年会等で生徒の実態、指導方針を確認する。生徒に対しては自律性を高めるよう働きかけ、保護者には協力を得られるよう連絡を密にする。	C	B		
		計画的、積極的に学校行事や特別活動に取り組む態度の育成	進路実現のための取組と学校行事、部活動などの取組を両立できるよう計画的かつ積極的に取り組ませる。	B	B		

評価

A：十分達成できている（目標以上の成果があった）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）

C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

D：達成できていない（成果がなかった）

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報活動について 広報活動の実施にあたって、例えば学校の広報新聞に生徒が作成した記事を掲載するなど、高校生が中学生向けに直接的に情報発信をすることで、更に中学生に伝わりやすくアピールでき、より充実するのではないか。 ○ 生徒募集について 工業に関する専門学科の生徒募集において、特に中学生が「工業」に関する知識に乏しいことが課題であると感じられる。中学生の興味・関心を喚起するため、地元商工会等の外部機関との連携を進めるなど、更なる工夫が必要である。 ○ 部活動の指導について 運動部活動部員の校外での様子について、学校近隣の方からお褒めの言葉があったとのこと。学校として励みになることであり、生徒も教員も地道な努力を重ねてきた結果である。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により運動部では大会の中止や文化系部では活動の成果を披露する場が少なくなってしまったが、今後も部活動を更に活性化し、高校生が活躍できる学校づくりを目指して欲しい。
----------------------------------	--

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自他を大切にする人権感覚の育成、及び規範意識の確立に重点を置いた教育活動を継続し、全ての生徒が安心・安全に高校生活を送れる教育環境の整備を更に進める。 ○ 令和4年度の生徒用タブレット導入を見据え、授業におけるICT活用の研究を進める等、授業改善の取組を推進する。また学習指導、及び評価の方法について研究を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現につなげるとともに、確かな学力を身に付けさせる。 ○ 生徒の希望進路実現のため、入学から卒業までを体系的に捉えた一貫した指導を行い、進学・就職ともに強い進路指導体制の更なる充実を図る。 ○ 本校の特色ある教育活動について、保護者、中学生、及び地域等に広く、正しく理解してもらうための広報活動を更に積極的に展開し、中学生に「第一希望」として選ばれる魅力ある学校づくりを推進する。また、京田辺市との連携を軸とし、地域の声を教育活動に反映させた取組を行う。 ○ 学校行事や部活動の活性化を更に推進する。生徒主体の取組をとおして豊かな人間性を育むとともに、帰属意識や生徒間のつながりの意識を涵養する。
--------------------------------	--